

「政治学」試験問題（2004年度 月曜7限）

あなたは、駅から自宅への道を歩いていた。夕方の、もう暗くなりかかった時刻だった。もう住宅街にさしかかり、人通りもあまりない。西高東低の気圧配置で、北風が身にしみる…

すると、夢ではないのに、目の前をドラえもんが歩いている。ドラえもんは、なにやらぶつぶついいながら、おなかのポケットの中をごそごそしているのだ。あなたは、「やっぱりドラえもんって、普段はポケットの中を整理していないのか！いざという時、いつものび太が文句をいっていたもんね。」と思いながら、家への道を急いだ。

しばらく歩くと、ドラえもんは道を曲がって路地に消えた。「のび太の家って、こっちだったのかあ」と思いつつ、そこを通り過ぎようとする…

なにかが落ちていく。どうもドラえもんが落としていった「道具」のようだ。あなたは、それを返そうと、辺りを見回したのだが、もうドラえもんの姿はどこにも見えない。どうしよう？ 交番に届けようか？ でも、「ドラえもんが落としました」と言っただけで、信じてくれないだろうなあ…。結局、あなたはそれを、家に持ち帰った。

自分の部屋に入ってから見てみると、なんとその「道具」には、『世の中の歯車が少しずつ変わるスイッチ』と書いてある！「えっ！ これって本当にドラえもんの道具？ それにしては無気味だよな～。どっちかというところ、ドラえもんの原作者の片割れのかいっている、『笑う…』に出てきた方がいい感じだけど…」

でもその「道具」は、あなたの目の前にあるのだ。さてこれをどうしよう？ 黒い小さな箱の中央に、小さな白のスイッチがある。押ししてみようかな？ でもやっぱりやめておこうかな？ あなたは、試験の近い「政治学」のノートをぱらぱらめくりながら、迷ってしまった。

で、結局あなたは、そのスイッチを押した。「結局は深く考えずに」といったところが正確なところだろうが、「まあ、就職活動もうまくいきそうにないし、なにか世の中が変わった方がいいかな？ それに、あの『撃墜王』といわれている、宮下先生の頭の歯車が変わってくれたらいいかも！」という気持ちがなかったかというところ、否定はできない。だって、このままいっても、人生面白いことはなさそうだし…。

しかし、スイッチを押してしばらくすると、その「道具」は消滅してしまった…。「えっ？ やっぱり夢か幻想だったのかなあ」 家族や友人に話しても信じてもらえそうにないし、あなたはその記憶を封印した。

そして、10年が過ぎた… はずである。気が付くとあなたは、なぜか政府に対する「抵抗勢力」のリーダーになっていた。

政府の代表、大泉首相はいう。「私の先輩は、10年ほど前に挫折してしまいましたが、今度こそ、日本を市場原理・競争原理を基本とした、活気ある国に作り変えたいと思います。そのためには、「痛み」をともなっても、改革を成し遂げる所存です」

あなたは反論した。「でも、そんなことをしたら、……」

しかし、大泉首相は引かない。

「そんなことを言っているから、日本は活力がないままなんですよ！ いつまでも『平等』なんて言っているから、能力・意欲のある人の力がそがれる。そして、多くの人々は、国家・行政に甘えて生きている。『結局は、政府がなんとかしてくれるさ』って。もう、10年以上も前から、『パラサイト・シングル』が問題になっていますが、結局はこれも『甘え』ですよ。親に頼る、そして最終的には、『政治がなんとかしてくれるさ』っていうわけですよ。そうじゃなくて、『自分のことは自分でなんとかする、そのかわりがんばった分は自分に戻ってくる』という社会にしないと、日本はダメになりますよ！」

「見てごらんない、夜の渋谷の街を。あのセンター街あたりで、いつまでもふらふらしている連中、おっと失礼、失言でした、ふらふらしている人たち、あれこそが、世の『甘え』の象徴でしょう。そのときそのときの『刹那』の快樂で生きていて、『あとはなんとかしてくれ』ですよ。『自分のことは自分で』の社会にしないと、次の世代をになう子供たちにも悪影響が出るのではないのでしょうか？」

何となく、もったもな気もする。

しかしあなたも抵抗勢力のリーダー、引くわけにはいかない。第一、あなたが「政治学」を教わった宮下先生も、このような主張に批判的だった気がする（あれ？ 本当にそうだったっけ？）。それにそもそも、なぜ自分が宮下先生の考えを受け入れているのだろう？ もしかして、歯車が狂ったのは自分の頭の方かな？

しかし今はそんなことはいってられない。さあ、大泉首相に対して、「そのような政策をとったらどのような弊害が起こるか、そうではない社会の方がいかに望ましいか」を主張する文章を答案用紙に展開しなさい。

その際、履修者の中には、「大泉首相の政策に賛成」という者もいるだろうが、役柄になりきって、反対の方向で論じること。

なお、答案を書く際には、以下に挙げた12の語のうち少なくとも7つ以上をそのまま使って、解答すること。そして、それらの語をそれぞれ最初に使った箇所では、その語を で囲むこと。もちろん、下記の語群以外にも、この講義の内容を参照しながら、多角的に論じることが望まれる。

最後に、「就職が決まっているので単位がほしい」などの記載のある答案は無効とする。時間に余裕のある場合は、講義・試験についての感想を末尾に書いてほしい（ただし、採点対象にはならないので、時間のない中、無理に書いてくれなくてもいい。後に会った時にでも聞かせてくれれば、その方がいいだろう）。

語群：(省略)